

令和元年度 真岡市公共施設等総合管理計画推進市民会議 議事録

■日 時：令和元年 11 月 1 日（金） 13：30～15：00

■場 所：真岡市役所本庁舎 3 階会議室

■次 第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員、職員の紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 議事
 - (1) 真岡市公共施設等総合管理計画の進捗状況について
 - (2) その他
- 6 今後の日程
- 7 閉会

■事前配付資料

- ・真岡市公共施設等総合管理計画の進捗状況
- ・廃校利活用事業の検討経緯について

■議 事

- 1 開会
 - ・事務局より、開会あいさつ。
- 2 市長あいさつ
 - ・本日の会議は、平成 29 年 3 月に策定した真岡市公共施設等総合管理計画の進捗状況について報告するものである。
 - ・真岡市公共施設等総合管理計画は、公共施設の床面積や更新費用などの縮減を図りながら、公共サービスの維持・向上を図ることを目的としている。
 - ・昨年度は廃校利活用事業者の公募を実施し、来年度には新庁舎の完成を予定している。
 - ・委員の意見を参考にしながら、今後の計画推進に役立てるとともに、市のホームページ等を通じて情報公開を進めたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

3 委員、職員の紹介

- ・委員、職員の自己紹介。

4 会長及び副会長の選出

- ・規定に基づき、会長及び副会長の選出。

5 議事

(1) 真岡市公共施設等総合管理計画の進捗状況について

事務局：資料の説明。

委員：資料 P.2 では、「建築物系公共施設の延床面積を 10 年間で 0.7 万㎡縮減」とあるが、資料 P.4～5 に記載されている解体予定施設の延床面積を合計すると 0.7 万㎡の縮減を達成できるということか。それとも、今後も継続して除却対象施設を検討していく必要があるのか。

事務局：資料 P.4～5 の解体予定施設は、旧庁舎関係の解体予定施設である。今後、新庁舎の延床面積も加わるため、すぐに延床面積を縮減することは難しい状況である。今後の計画の見直しの中で、除却対象施設を検討していくこととなる。

会長：廃校となった 4 つの小学校の延床面積は、資料 P.2 「表 1 真岡市公共施設再配置計画の目標に対する現在の状況」の延床面積の増減に含まれているのか。

事務局：廃校にはなったが、建物自体はまだ残っている。これまで学校施設として取り扱ってきた同面積を行政施設に移管して計上しているため、公共施設全体で考えると延床面積の増減はない。

会長：10 年間の延床面積の縮減目標 0.7 万㎡を達成するための見直しなどを教えてほしい。

事務局：現在の状況を考えると 10 年後に 0.7 万㎡の縮減を達成することは難しいと考えている。市民にとって大切な公共施設を簡単に除却することはできないため、5 年ごとの計画の見直しの中で、除却対象とする施設を検討したい。また、延床面積の縮減だけでなく、将来更新等費用の縮減を目指し、目標達成のための方策を検討する予定である。

副会長：真岡市公共施設再配置計画で位置づけた取組は、すべて市の予算で実施するのか。国の補助金等を活用する予定はあるか。

事務局：事業の性質によって国の補助金等に該当する場合があります。除却・改修等には可能なかぎり国の補助金等を活用して、市民に負担がかからない方法を選択していきたい。

副会長：廃校や解体を行う公共施設内の備品はすべて廃棄するのか。

事務局：老朽化や劣化の状況等を踏まえて個別に検討する必要はあるが、単純に廃棄するのではなく、活用できる備品は再利用したいと考えている。

副会長：4つの廃校は耐震工事を完了しているのか。

事務局：4つの廃校は、耐震工事を完了している。

副会長：廃校を民間事業者に利活用させることになるが、民間施設となった後も避難場所として使えるのか。

事務局：廃校は現在避難場所に指定しており、民間施設となった後も避難場所として使えるように進めている。

委員：大規模災害が増える中、この計画を進めることは大変であると感じている。旧東沼小学校は、これから民間事業者による利活用を検討することになるが、災害時に利用できる施設として残してほしいと感じる。

委員：水道施設の高架水槽の耐用年数はどの程度か。今後発生する可能性のある大規模地震に耐えられるのか。

事務局：高架水槽はRC造であるため、税法上の耐用年数は60年である。耐震性能等の安全性に配慮した施設になっている。

委員：人口減少の状況下で、若者が集まるための施策や場を設けてほしい。

事務局：現在、市役所の建設部棟付近に「学ぶ・遊ぶ・にぎわう」というコンセプトの複合施設を計画しており、図書館、カフェ等を併設する予定である。複合施設がまちなかの活性化につながることを期待している。

委員：資料 P.6 の道路の舗装長寿命化修繕計画で、早急に修繕が必要となるMCI値3.0以下の市道は約47kmである一方、過去3年間（平成28年度～平成30年度）の修繕実績は8.3kmである。このペースでは修繕しながらも他の道路の老朽化が進むため、修繕が完了しないのではないかと。

事務局：舗装の修繕にあたっては、舗装の強度を増加させつつ修繕を実施している。限りある予算の中で、交通量が多く、MCI値がより小さい道路から優先して修繕を行っていることをご理解いただきたい。

(2) その他

事務局：廃校利活用事業に関する資料の説明。

委員：旧長沼北小学校の廃校利活用事業は、市の維持管理費等の削減に貢献できる事業と考えている。

しかし、事業者の開業準備の中では学校機能から用途変更を行うために時間・労力・経費が掛かることを実感し、事業者と市の役割分担の必要性を感じた。また、旧長沼北小学校の設備・備品に関して、現在の安全基準を満たしているかの検討も必要であったため、これらのハードルが障害になり事業参入できない事業者があると考えている。廃校利活用事業は簡単ではないが、地域に貢献できる喜びの方が大きく、今後とも頑張っていきたい。

委員：4つの廃校のうち、旧東沼小学校に関しては民間事業者が決定していないが、今後、利活用事業の検討を進めるのか。

事務局：今後、旧東沼小学校の利活用の検討を進める予定である。

6 今後の日程

- ・事務局より、今後の日程について説明。

令和2年度真岡市公共施設等総合管理計画推進市民会議

日 時：令和2年11月上旬（予定）

場 所：真岡市役所新庁舎（予定）

7 閉会

- ・事務局より、閉会あいさつ。

(以上)